

ースタッフー

役 職	スタッフ名
診療局長 兼内分泌代謝内科部長 兼栄養管理センター長	大野 昭
医 長	倉敷 有紀子
医 員	清水 勇雄

ー概要ー

内分泌代謝内科は、急性期治療の困難であり合併症を巻き込む糖尿病の治療を主に、複雑な内分泌疾患の治療も担当する。構成は常勤医3人(大野部長 倉敷医長 清水医員)、非常勤医4人(森下先生 矢頃先生 梶本先生 福井大阪大学助教)である。入院患者数は、糖尿病84、低血糖1、下垂体疾患2、甲状腺疾患2、副腎疾患3、尿酸代謝2であった。

多職種による糖尿病教育入院を実施するとともに、治療技術の進歩に呼応して、入院および外来での連続血糖監視(CGM)に基づく血糖変動解析、外来でのインスリンポンプ療法への理解促進・バセドウ病のアイソトープ治療・成長ホルモン補充療法・ソマトスタチン受容体阻害薬治療を行った。内分泌疾患診断の紹介患者さんには診断のための負荷試験を可能な限り外来で行い精密精査は入院対応している。脳神経外科とともに下垂体疾患の周術期・慢性期管理、広域周産期センターの責を負う産科とともに糖尿病・甲状腺疾患合併妊娠を管理している。

当科は大阪大学内分泌代謝内科の関連施設であり、大阪大学総合地域医療学講座の支援をいただき地域医療に益すべく協働による治療・研究を指向している。看護者を主体とする糖尿病フットケア外来(金曜)、多職種による腎症透析予防管理外来(金曜)を行う。

糖尿病の医療連携は地域特性に根付く包括ケアの萌芽であり、地域医師会との定例研究会をはじめとして地域糖尿病療養指導スタッフセミナー、南泉州北和歌山地域の連携会を実施、泉州圏域糖尿病対策小委員会(和泉保健所所管)を主宰して2次医療圏レベルでの協働構築を目指している。

市民への働きかけとして生活習慣病予防教室(年10回)主催、市特定検診結果説明会・市健康フェスタでの相談、放送大学面接授業を担当した。